

本朝水滸傳
五

本本
本朝水滸

13
1137
5





御書物 淀屋橋筋提本所
御経類 井筒屋
萬貫本 本林田清信公提

かた水游傳考之石

第九條

徳麻呂神乃とて入派奏及より之。乃後より之
セ原。巨指金名法麻呂神たはく。其に金府
親子法管もとりよ死

こけのきよまり。神乃の御使をててゆりまうと奏ひるより。天皇より
御使決ちりさせたまひ。神乃の御使とて原。乃後より神乃の神
よりりてと力小は居り。法麻呂奏して曰。御使力之字依の太神乃
八月十日の辰乃と死大神乃を考なりとて。その死七をかり。乃後
く。雲霧をまどひて。いと多死中あり。神の御形其大をかりの神と
之。神考よりのてまう。阿部丸あゝぬり。乃後奏せり。乃後日嗣ハ神

門 家 13
瑞 1137
義 15

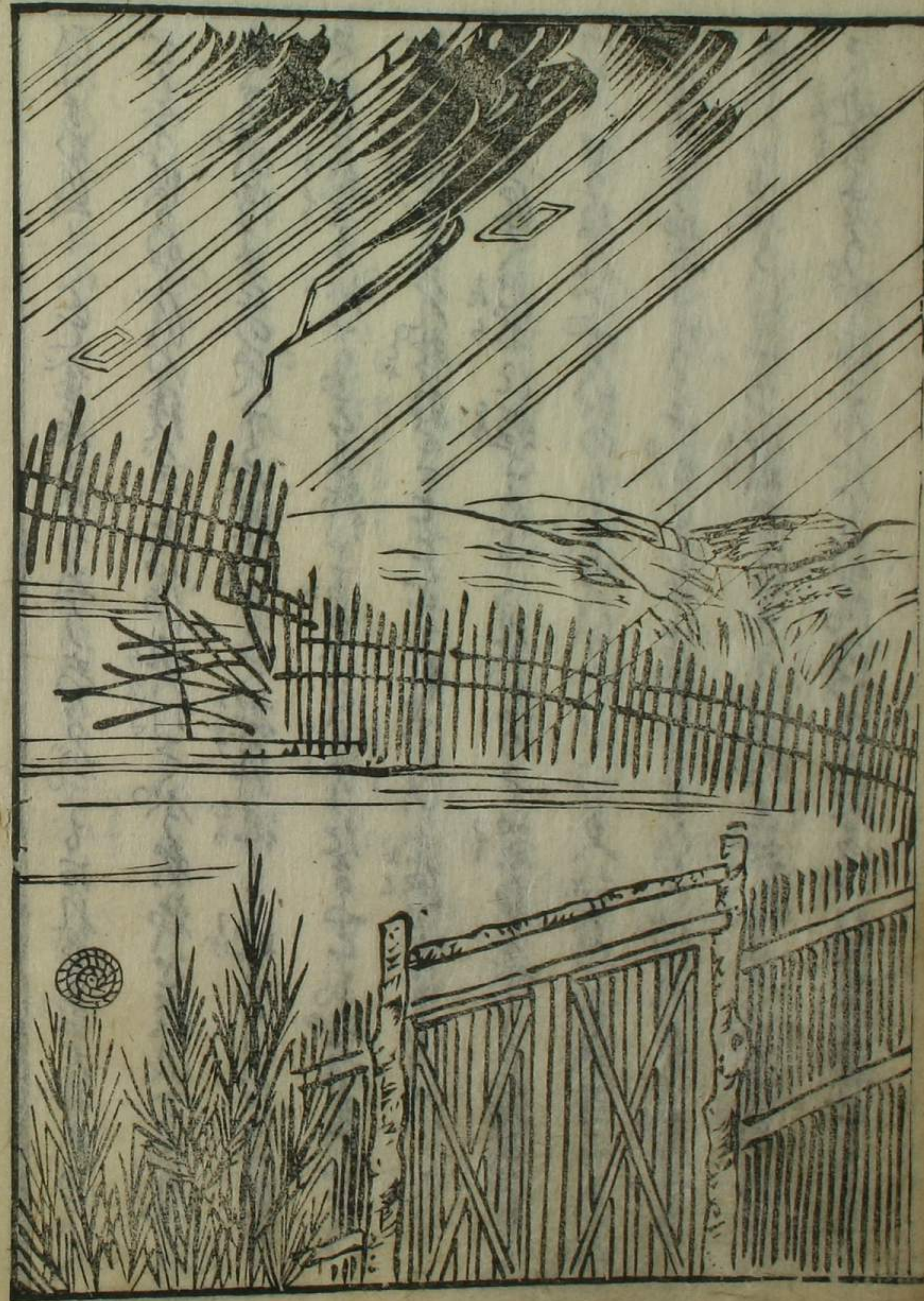
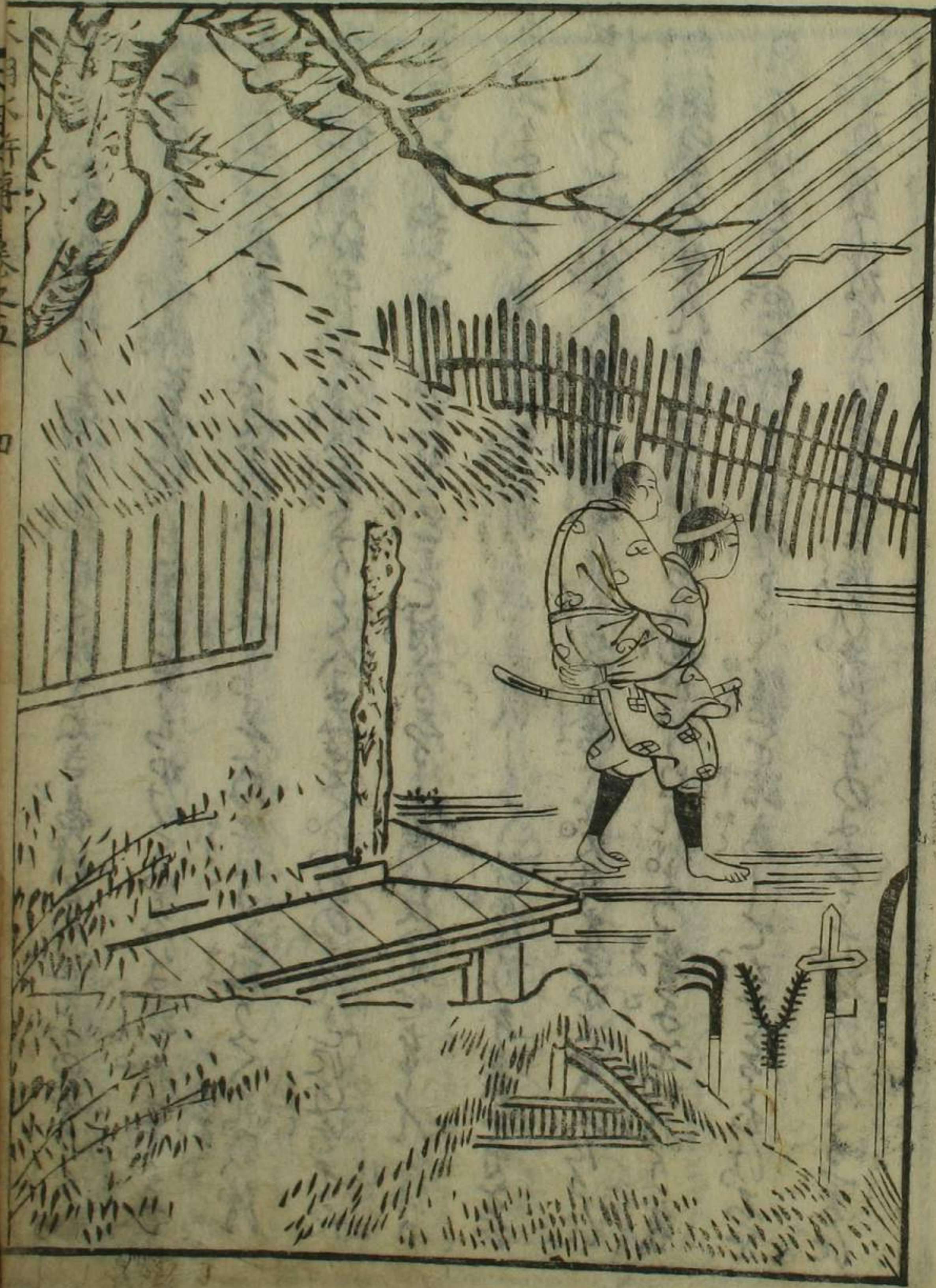
本朝水游傳 卷之五

代より作亂のわづつがせぬ。松乃のたわび。いよんや筋の死者と。海
 び苔のまにく奏一。つげを。若くはなると。是と。うり。に。を。務。た。れ。後。り
 てゆ。津の川。夜。あ。ひ。あ。つ。乃。あ。い。ぬ。り。と。奏。世。バ。天。を。も。所。公。の。知。ま。く。地。が
 び。の。あ。つ。あ。つ。乃。後。ハ。あ。い。あ。り。眼。泣。め。く。一。面。津。ま。く。一。當。地。變。行。す
 一。大。ま。に。旬。う。く。い。り。く。あ。つ。奏。ハ。津。の。所。を。入。に。行。く。と。は。を。た。あ。よ。ゆ。け
 湊。え。ん。や。海。が。あ。つ。り。く。巧。く。捕。ま。く。津。の。所。を。津。津。を。り。り。品。今。あ。り。海。が
 名。津。極。麻。呂。と。お。ん。と。旬。を。く。刑。罰。者。あ。り。乙。慈。と。拒。け。け。奴。柳。の。筋
 と。あ。つ。う。く。大。隅。に。流。す。つ。ら。い。べ。い。ま。は。冠。冠。は。一。ひ。と。を。り。お。せ。る
 と。あ。つ。い。く。い。ひ。懲。り。又。刑。罰。者。に。さ。む。ら。坂。戸。年。表。石。表。大。井。戸
 二人と。ま。あ。ぬ。死。耳。に。若。く。指。つ。り。ら。る。の。り。さ。と。年。表。大。井。戸。法。九

冠。冠。は。一。裝。束。と。衣。せ。極。麻。呂。と。あ。い。ご。く。解。脱。さ。の。者。ま。あ。り。海。が
 と。ぬ。を。着。衣。す。た。く。あ。つ。乃。柳。を。い。た。り。柳。の。馬。の。筋。を。ま。り。と。お。く。ハ
 皮。ハ。つ。死。破。ら。れ。く。血。を。く。ま。れ。柳。ハ。塞。ま。く。と。た。ら。び。法。麻。呂。ハ。り。く
 あり。あ。い。定。く。金。と。あ。つ。と。せ。ご。り。か。ど。品。の。ひ。が。ま。に。は。ま。く。ま。り。も。初
 か。ひ。ま。く。法。麻。呂。と。あ。あ。り。死。喪。に。昇。あ。り。ち。秋。の。友。人。う。ら。を。み。ま。く。
 極。麻。呂。と。礼。ま。事。あ。つ。つ。坂。戸。年。表。石。表。大。井。戸。年。表。好。方。を。あ。り。く。大。隅
 と。さ。く。ち。家。ま。の。自。地。田。熱。ん。と。く。と。死。の。あ。ら。う。ら。う。と。死。高。の。り。と。あ
 死。の。目。も。宮。く。あ。り。か。公。の。あ。り。と。に。返。す。ハ。た。と。家。ひ。つ。乃。ま。ご。よ。を。あ。り
 今。表。ハ。ま。い。あ。つ。と。せ。ご。り。と。ま。ま。ひ。法。麻。呂。と。八。嶋。あり。昇。あ。り。ゆ。と。ち。い。が
 あり。二。間。の。人。若。と。も。れ。く。と。家。あ。り。や。ひ。ま。せ。年。表。大。井。戸。の。二。人。八。中。の。二。間

乃ちこれ等に入らば。ちかぢどもハ下座の方につかりて伏せ居る。ぬいそ
階上つらつと神宮に参りて。おもと御くまへ。海軍の。信麻呂はとて侍ひて。う
こ。信の大神を参りて。なり居る。さくさく。信麻呂。これハ。後が。侍ひて。神宮に
さきり。破る。ちかぢども。参りて。入る。もの。とて。信麻呂。これハ。後が。侍ひて。神宮に
そ。か。ま。頼。ひ。あ。り。さ。う。さ。う。も。抑。ハ。寒。さ。り。ち。カ。ハ。佩。ひ。は。ま。く。に。命。を。ま。か
り。お。か。れ。と。お。し。ひ。て。う。こ。ぢ。も。せ。く。の。神。宮。と。松。さ。ぐ。り。あ。ら。う。と。さ。く
耳。よ。う。う。と。神。ハ。巨。路。金。石。を。り。父。の。金。麻。呂。や。つ。け。て。ま。は。ら。せ。り。と。い
お。ひ。て。お。も。お。く。は。た。か。家。出。つ。ら。ま。と。え。を。り。か。く。あ。の。び。の。う。い。ひ。の。か
ま。み。お。も。り。ん。神。宮。か。ら。ぶ。づ。び。神。宮。ひ。ま。ら。せ。て。ま。の。か。ん。と。ら。あ。は。せ。り
大神の。ま。ま。う。あ。ら。う。と。あ。ひ。か。家。出。は。せ。は。松。さ。ぐ。り。と。お。も。お。く。は。た。か。家。出。は。せ。り

ひはまかひ。とて。金石。よ。お。も。ら。う。と。あ。ら。う。が。さ。も。は。れ。神。宮。大。神。の。二。人
ぞ。ま。の。彼。の。お。も。り。の。後。が。と。は。神。宮。に。今。秋。神。を。頼。ひ。さ。き。氣。み
え。う。の。信。は。ま。ま。の。死。さ。ぐ。り。罪。人。の。神。宮。に。遊。ぶ。う。と。は。ら。う。が。か。う
之。罪。を。後。が。ま。お。も。ら。う。と。う。神。を。頼。ひ。さ。き。氣。み。な。ま。ま。の。死。ひ。ま。ら。せ。り。な。ん。い。と。あ。ら。う
と。う。の。防。ぎ。ま。ら。ん。神。宮。に。遊。ぶ。う。と。あ。ら。う。と。う。の。防。ぎ。ま。ら。ん。神。宮。に。遊。ぶ。う。と。あ。ら。う
さ。ハ。ま。ま。に。く。信。麻。呂。に。頼。ひ。て。う。い。は。か。う。と。う。の。罪。を。ま。ら。う。と。う。の。罪。を。ま。ら。う
つ。ら。の。あ。ら。う。と。う。の。罪。を。ま。ら。う。と。う。の。罪。を。ま。ら。う。と。う。の。罪。を。ま。ら。う
かけ。と。や。や。う。い。を。つ。裏。乃。う。と。あ。ら。う。と。う。の。罪。を。ま。ら。う。と。う。の。罪。を。ま。ら。う
と。遊。ぶ。ま。ら。う。が。家。出。は。せ。り。な。ん。い。と。あ。ら。う。と。う。の。罪。を。ま。ら。う。と。う。の。罪。を。ま。ら。う



からき。な後に申入れバ例をあらんと。人逃避けく明敷のたつま
さまのあつさりねぞ称衣裳の袖より金多に丸くあつ。半生は弁
士のく著ひめ初仕終つる洗つたれバ。藤麻呂が首へかくちかくさひ
お様らしの志をたれど。秋くがむよりよゆゆとらハ。藤らしのあつん。
りぐみんとあよよとゆとれやどまはさ首へ申。さハめめ今今これ
まぐ携へくあつつるよ。大井戸のよまひいとらバ。大井戸のりく。母
人のやまれせんき。藤麻呂が首へ射するふびや。さこそおぬが
よ色みく拙くまこれ。神ハゆもつれどくらハ。被せめ衣帛と打入
しきみろよ。人の面画つる紙乃らち懸びくもるは。さハ何のぞとく
さつげ。な脱大いろう。女お初とあむひたく。藤麻呂またまけ。かへ

紙給はたかまきまき。藤はむごやあつるハいりまといひまよ。を力を被く
二人を眼おは伐り殺し。へまれば藤らしの物次昇せき。暇にこく真原
くろぬ。さハ何のりひひとちかちかとも。福らひくろかづけぬ。そち教
どもハまぐの人を被りけ方につけく。塞男遠くハいさま。とく。大船の心乃
隈をこわい。巨勢治部さしてはよ日も暮ぬ。徳松おあせを程々に。人ひ
て酒の味はげ。巨勢金をて塞を願ひて家内ゆつ。いふおる男よあねといひた
守部もまきおとられ。何よまれ金存がかられ。かを囲みく。金存がよめ。傳
るぐいひさびで。事款解散三十人あり。仕丁さハ徳松こりかせて。巨勢
金麻呂がやうを囲み。金存を塞に追ひてかへり。とら。其塞を破入る。
今も今えん。かさん。塞を縮き門をうちをわすとまき。人

又此物。すそをちりちりして。種を種に。とて。肉汁を色に。今ハ。かきひねり。あはせ。
 法麻呂。を。座に。居り。て。獲。か。死。後。り。う。む。け。は。珍。奇。なり。金麻呂。も。毒。を。う。教。
 して。お。り。て。獲。た。後。り。て。その。毒。乃。死。懸。よう。ち。か。お。り。て。死。後。り。金。石。又。石。坐。
 子。居。り。て。獲。た。十。支。等。物。を。う。む。り。咽。下。し。て。死。後。り。て。死。後。り。さ。き。み。り。に。
 血。の。か。さ。り。り。り。た。ち。み。ら。傷。を。か。れ。お。も。身。死。か。せ。り。鼻。に。さ。り。眼。を。さ。り。
 口。に。さ。せ。ひ。け。た。守。教。も。改。を。痛。く。嘔。吐。を。く。狗。を。く。に。さ。り。れ。か。く。死。
 され。ば。首。を。さ。り。て。ま。か。り。あ。り。か。と。ま。え。な。り。に。何。れ。も。な。ら。ん。其。れ。ら。後。ハ。後。り。
 たり。と。い。ひ。く。首。の。骨。を。穿。つ。槽。に。さ。め。ひ。ら。く。れ。と。さ。居。く。求。道。に。た。め。は。執。
 照。の。月。を。つか。ぬ。に。た。め。り。死。後。り。あ。ま。り。さ。り。く。の。う。り。さ。り。せ。ば。首。を。さ。り。て。え。
 ん。と。ら。ぬ。と。れ。く。乃。司。立。居。ひ。く。槽。を。ひ。ら。け。み。方。に。首。を。さ。り。び。と。居。り。た。り。

第十條

金麻呂經子法麻呂を殺すに傳るの渥泉に志のぶ

首の形をへられ。司。も。大。に。い。か。り。汝。亦。ハ。上。法。教。く。衆。人。命。が。保。を。せ。り。た。
 び。り。り。と。衆。人。を。さ。り。て。死。後。り。す。り。入。く。徹。後。に。傳。り。汝。亦。の。さ。り。り。か。ん。ん。
 つ。お。け。の。者。と。さ。り。は。れ。と。か。ら。く。首。を。さ。り。て。死。後。り。

赤い玉だんじりつれが。かりとく人よまぎれてハ隠れぬ死あるなり。け取のうち
 めもとりまかりして。巨勢山沖越くゆらさうさくゆくべ。またのけらぐれが。
 巨勢山の飯方うらてに足あしはきまに捨すてたひく。これもかまかまかむらやの
 二人まぐもたり。志こころを結むすくけし。ばうち一人を付つひ。又ひとりせハ枝子金
 石よさく。物ものの消しょう息いきをカを金かねもたたり。さくかよつう。世家のけ
 さまおんまて毒子のゆへんどうが。せもぐらん。いさよそいそが。まき。金石とみや洞わづま屋やい
 きく押おし頭あたまは旅人りよと乃なりるか。んとおりといを。肥うま乃なり押おし後あとはひかせ。清麻呂
 と中にのせを又と二人ハ老若らうじやくよあり。金石ハ管くだ祓はらゆるの物ものか。後あとが。死し具ぐ
 ぞゆ。沖ゆハ赤あかの緒いとにかく結むすく。うち赤あかひく。おとにけさくおれく。赤あかハせ。ち
 をかり。ま。秋あきの月つきうちまぐに。星ほしまき。く。鳥とりく。山の嶺たねとれ。げ。丹にと

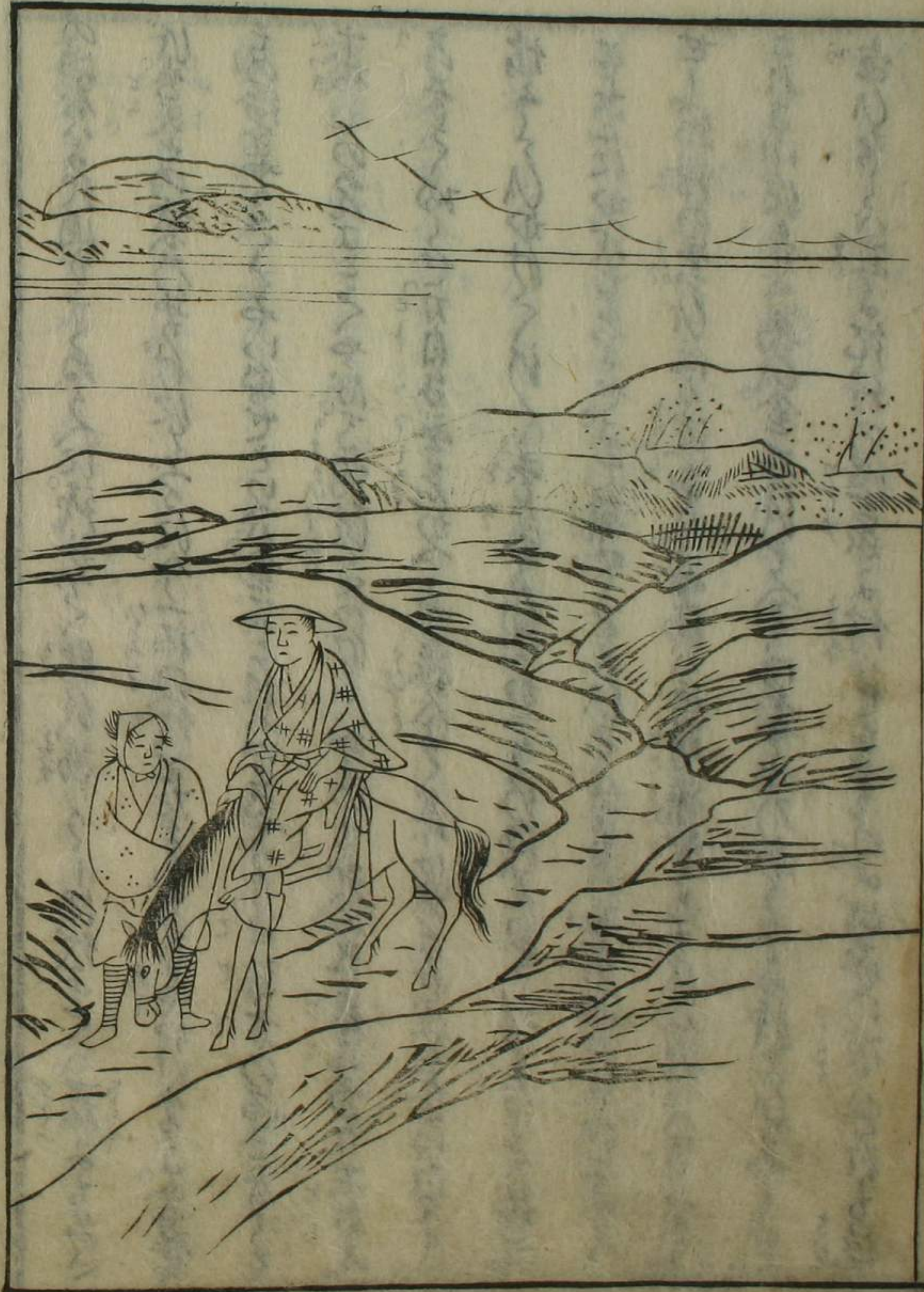
心をあかりて。勢せいいとまきく。むく。芒ぼう葉は者ものをまよけゆ。く。あり。な。あり。に
 そひく。けく。あり。本もとひ。沖ゆを右みぎにとり。まよ。ふるあり。お。は。尾お乃なりと
 越こゆる。巨勢こせの山やまさめ。ぐり。いたく。赤あかの十とをかり。後あと並ならぶ。所ところのま。た。金かね丸
 清麻呂しみろに。け。く。い。く。む。か。大おほ家やう乃なり。以もた。上かみ天てんを。持も統と。紀き伊いの。ま。よ。い。ま。い
 の。死し。術じゆつ。依よ。せ。坂さか。門かど。人ひと。足あし。が。
 巨勢山乃列こせのやまのつら。越こつ。く。に。た。く。ら。あり。巨勢乃十こせのと。と。
 とあり。け。あり。ば。延のび。ま。格かく。系けい。と。よ。び。つ。終つひ。は。海うみ。乃なり。若わか。と。い。は。せ。り。後あと。方かた。に。さ。う
 ぬ。び。く。ま。ふ。む。く。あ。け。る。赤あかの。ひ。ぢ。か。く。て。そ。ら。を。か。ま。む。わ。ら。ち。後あと。陰かげ。の。ま。ひ
 つ。あ。ま。つ。る。男おとこ。あり。先ま。は。赤あか。に。や。ま。く。り。せ。あ。く。せ。く。ひ。の。後あと。ひ。あ。か。ん。と。く。
 する。海うみ。乃なり。門かど。よ。つ。わ。を。清麻呂しみろ。と。老おい。刀やいば。自みづか。を。か。は。り。う。を。後あと。は。ま。ひ。ち。う。て。ま。ご

大用入許尊 卷之五

曉るれが主人の膳りのくわる。いふちたたくる。金石も越つ死ぬ。金石をいひまお
 ろし。声ささくくと穢野やおまひる。金石を説くおまひる。おまひる。おまひる。おまひる。
 いふく。草野を引まひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。
 登るれが。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。
 之れ。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。
 一の友。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。
 おれら。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。
 ぬくの。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。
 て。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。
 石袋より。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。

の酒。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。
 び。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。
 その。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。
 十。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。
 高。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。
 遠。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。
 と。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。
 せ。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。
 これ。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。
 金。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。おまひる。

大目人并身 卷之五



みる志又厚し。彼が名ハ巨跡長次と云。彼は八神と云く。巨跡は侍り。金石
 多りくせし。ハ。金石はく。おと多るに。二人はひたあせそ。二人はあうく
 のより。始末と云え。そ。飲食を。ハ。粟の飯と云く。あう。ハ。法。麻呂。文。を
 帯し。書く。獵。野。に。あ。え。金。麻。呂。ハ。袋。より。金。汁。を。お。く。金。を。よ。授。け。さ。て
 年。三。つ。酒。借。り。く。二人ハ。あ。う。く。紀。伊。乃。巨。跡。は。い。そ。く。に。だ。さ。り。あ。う。て。ま
 無。事。と。う。く。行。ひ。ま。の。秋。は。部。日。は。あ。う。て。り。と。ゆ。や。ど。に。ち。か。ま。あ。ひ
 つ。巨。跡。に。つ。く。さ。く。去。ぬ。よ。く。集。團。一。た。ら。に。せ。く。あ。り。さ。る。事。乃。あ。う。く。お
 正。代。か。う。く。や。ど。り。と。定。む。あ。う。く。兄。子。等。の。や。ど。お。ハ。志。を。く。よ。し。れ。ば。法。麻。呂
 巨。跡。に。う。ち。候。ま。は。し。ひ。大。罪。の。世。息。や。ら。う。さ。け。ん。二。日。を。う。さ。ら。に。筋。ハ。の。び。ら
 か。ら。死。せ。う。く。抑。よ。く。ら。ゆ。み。あ。う。う。い。と。か。さ。け。わ。く。か。さ。く。せ。り。え。び。う。く。

志くも。お。は。は。く。その。家。ま。か。れ。さ。う。て。金。石。獵。野。を。お。く。あ。う。く。あ。う。た。う。を。信
 け。さ。く。その。家。乃。隣。ま。は。い。さ。う。さ。う。く。い。お。り。の。と。あ。は。れ。ま。は。人。を。集
 軍。事。乃。備。之。強。と。う。く。世。の。つ。て。ひ。と。ま。る。人。と。さ。ハ。い。と。さ。び。げ。ん。と。云。は。く。
 乃。は。方。に。は。居。え。ん。よ。ハ。死。懸。る。が。お。い。ひ。ま。に。その。家。ま。あ。れ。ば。表。に。説。き。お。し。
 其。の。説。乃。覆。は。さ。ら。ん。紙。は。ハ。鼻。鼻。と。云。つ。け。又。傍。に。伴。度。礼。殿。旨。令。白。府。津。の
 軍。の。條。か。う。び。に。ハ。敵。令。痛。矢。事。を。願。た。ま。の。條。と。あ。う。た。う。入。来。り。人。を。乃
 あ。う。く。さ。み。く。そ。ハ。お。か。り。ち。死。お。ど。を。い。ひ。く。ハ。入。る。又。来。り。人。も。あ。う。い。ひ。く。
 入。る。又。その。鼻。鼻。を。る。や。事。と。か。う。う。打。ら。び。く。い。れ。も。あ。う。を。な。る。場。と。あ。う。く。
 い。れ。ま。あ。の。方。に。お。か。れ。た。あ。ひ。と。ま。も。お。い。ま。る。人。乃。と。り。わ。し。さ。そ。僕。も
 先。に。あ。う。く。居。り。さ。る。ハ。満。ち。あ。う。と。ま。う。て。か。の。い。ま。来。る。に。候。け。く。い。ハ。い。は。

又次くや西の殿令終よかれのお條ありとあそれとくおりてくゆぞ。
はるに先世業はるんとりひくおま小き先終かてと人乃鼻の方にうおひよ人
皆袋決かぐろと死く残る二ツ二ツ口つとこ一いつに。かしくと振あるううく
そとひの仲が死に投なげおこたまへおどふ。そちる方よ。向ひの家うち
こまてく人さけびきり。おそとくまけハ蕪わ食くに火つたてくおまうつ。
おのちの終しゆのつとくさつぐあり。集ある人あそ感まん。袋もああ人
び。残のこのちれあもかろくおまももむぐ逃げさるぬ。さてちるに人
ひのちもあうて備きぬかく強さだたるまに。表あは焼やせる火も吹ふく。因よに
いしくおあうべうと。あのちれる残のこども控か集ありあうとくあつ。さく
隣とまはうちあうて隣と乃大人うの利とはぬ。おの人あうといひく昔むの

軍たの傍たどもさきくによりく。世の中とこちがく。民たのあげたよまあふと。
みくたをけとさう。又乃残さうとさくたてくおとにつくハ。法ほ麻ま長ちやう乃名なと
よび。意い英えい押お持ぢると祖そ王わう乃出しうとと物ぶ持ぢおちに。寔じ責せはよ耳み決けつよせせ
白まには居いる。隣とるハ。いあか。人ひとハ。おり。まに法ほ麻ま長ちやうときさ入いつる名なの
尤なが。そあ。とと替かりひく。表あをからそのあり。まあはうがひ居いれる。鼻はな
表あはこれ何なんかの人ひとを。後のち乃物ぶ持ぢをたぬとく知しべし。

本朝水滸傳 卷之五 終

Handwritten text in a cursive style, likely a historical record or a collection of letters, contained within a rectangular border. The text is written in vertical columns and is significantly faded, making it difficult to decipher. It appears to be a transcription of a document or a set of records.



